

伊勢大橋と国道 1 号線

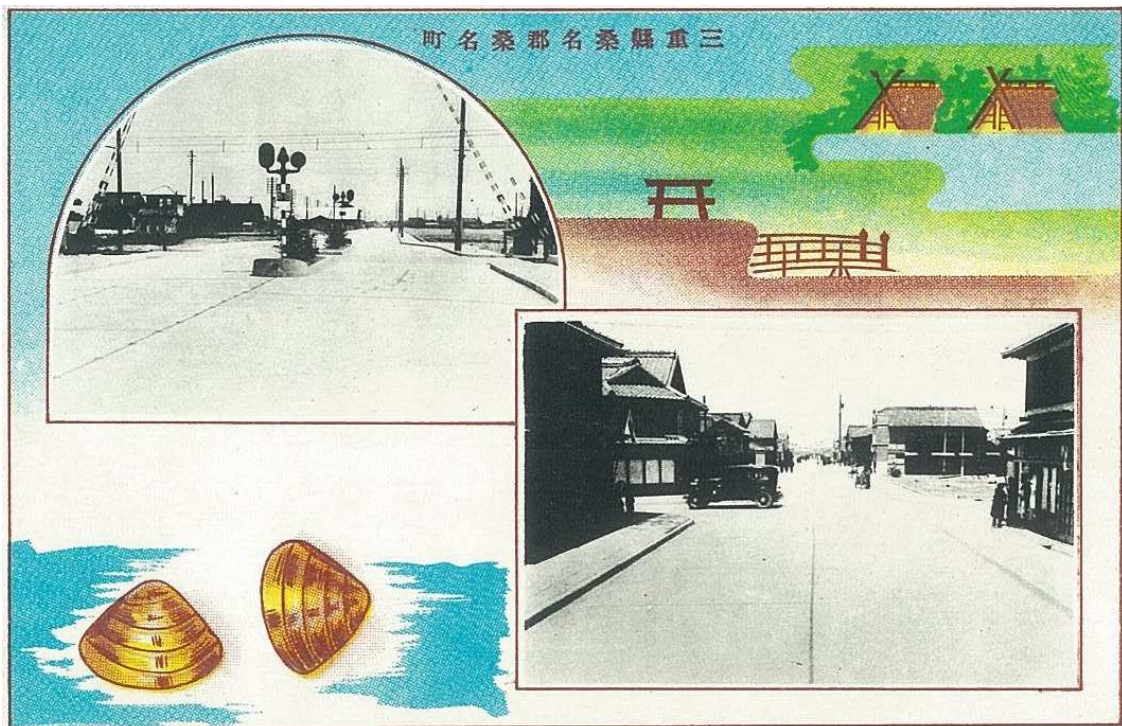
桑高同窓会長 西羽 晃

桑名市中央図書館では「昭和の記憶」収集資料展を毎年開催して、今年は第 11 回になる。今年のテーマは「伊勢大橋が見つめた桑名」で、9 月 30 日から 10 月 2 日まで開かれた。私は「伊勢大橋が見つめた桑名」と題する記念講演を 9 月 30 日に行った。伊勢大橋については他の方が話されるので、私は伊勢大橋が出来るまでの状況と国道 1 号線について話した。定員 40 人のところ約 70 人が聞きに来ていただいた。

桑名は戦災で残っている資料は少ないけれど、毎年のように古い写真が寄せられ、私はその写真から選び出してスライドにしてもらって話した。江戸時代は熱田との 7 里の渡し、佐屋との 3 里の渡しであったが、明治になって弥富から長島を経て桑名へ渡るようになった。このコースが国道 1 号線である。三大川を渡船で渡っていたが、不便であり、三大川に架橋の声が挙がり、国で架橋の建設と、それに伴う道路の新設を決定した。

桑名市街地での国道 1 号線は江戸時代からの東海道そのままであったので、非常に狭いし、曲折も多かった。町屋川から揖斐川までに直線の道路を計画した。

昭和 5 年に伊勢大橋の建設工事が始まったが、国道新設は昭和 6 年 5 月 1 日から始められた。昭和 7 年 3 月に竣工し、4 月 17 日に開通式が行われた。中心部は車道 8 ㍍(コンクリート舗装) 両側に歩道各 1.5 ㍍(コンクリート板舗装) 途中に北勢線を横切る踏切があり、遮断機が設置された。この踏切部分だけは道路が少し広くなり、中央分離帯があって、その上に信号機が立っていた。



下の写真は矢田の交差点である。手前の左右対称の建物は今も残っており、右側は和菓子屋「和」となっている。前方左にも同じような建物が見られるが、今は無い。交差する道路が旧国道であり、江戸時代からの東海道である。通っている車は当時の乗合自動車（バス）である。

また八間通には桑名電軌（市電）が駅前から本町まで通っていたが、国道を横切った。ここは踏切が無かった。桑名電軌では国道停留所を昭和11年に設けている。

安永付近は車道幅6間（コンクリート舗装）、両側に歩道各1.5間（砂利道）で、続く新町屋橋が昭和8年5月4日に渡り初めをしている。

伊勢大橋は昭和9年5月25日に竣工し、翌26日に渡り初めをしている。同時に長島地内の国道も完成しているが、道路幅9間（砂利道）で車歩道の区別がなかった。

伊勢大橋が開通して 82 年、その美しい 15 連のアーチが親しまれてきたが、老朽化などの理由で新しい橋に架け替えることになって、現在建設中である。新しい橋には「鉄の弧」は無い。今の伊勢大橋は撤去される予定で、桑高の校歌も歌詞を替えねばならない。